



令和3年産米の 集荷状況をお知らせします。

2021/10/22現在 俵/60kg

	契約数量	集荷実績	1等数量	契約数量比率
			等級比率	
綴子	16,059	14,933	12,680 84.9%	93.0%
七日市	17,545	15,550	13,449 86.5%	88.6%
栄	7,438	7,323	6,225 85.0%	98.5%
鷹巣	2,433	2,510	2,313 92.2%	103.2%
西部	18,122	17,052	14,844 87.1%	94.1%
沢口	14,316	13,528	12,142 89.8%	94.5%
合川	28,567	26,495	25,285 95.4%	92.7%
森吉	20,447	21,342	18,992 89.0%	104.4%
阿仁	4,293	3,702	3,220 87.0%	86.2%
上小阿仁	13,066	11,741	10,553 89.9%	89.9%
合計	142,283	134,174	119,701 89.2%	94.3%

稲作情報

営農部米穀課
武石 努



来年度に向けて 「雑草」対策

今年は天気が良く気温の高い日が多かったことで、雑草が多発している圃場が見られました。そのため、圃場内には雑草の種子や塊茎が残存しています。中でも、「クログワイ」や「オモダカ」などの多年生雑草は、初期生育が旺盛で除草剤によるダメージからの回復も早く、除草効果が小さくなる傾向があります。



対策

これらの雑草の発生を抑えるには、除草剤の適切な使用が重要となります。オモダカ、ウリカワ、シズイ、ミスガヤツリの塊茎の寿命は1〜2年、クログワイは3〜5年です。数年間完全に防除すれば水田土壌中の塊茎は無くなるので、これらの多年生雑草は出てこなくなります。ミスガヤツリの塊茎は、酸素が少なくないと出芽できないため、代かきで土壌中に埋め込めば発生数を抑えることが

できます。稲刈り後の除草剤散布は、塊茎の形成防止に有効です。

除草剤を効果的に 使いましょう

除草効果を十分発揮するためには、圃場の均平が大切です。また、散布時には水深を5〜7cm以上確保し、薬剤が均一に広がる状態で散布しましょう。特に、豆つぶ剤・ジャンボ剤等拡散性のある薬剤散布は、風の無い日、もしくは風が吹いている場合は、風上側に多め（風下側は少なく）に散布し、10a当りの散布量を守ります。また、効果を安定させるために、3日間は水面から田面が出てしまっても入水は行わず、そのまま管理し、3日以降、再入水する場合は水口に板を設置するなどして、水の勢いを抑えてゆっくり入水します。

※除草剤の種類により、効果を発揮しやすい雑草と発揮しにくい雑草があります。今年どのような雑草が多く残ったかを確認し、適切な除草剤を使用しましょう。

雑草がない
田んぼが良い
ワン！

